

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 105 2012.11.25 連絡先 402-1622 >

いざ、総選挙！！ 「提案し、行動する」日本共産党躍進に お力をお貸しください

12月4日公示、16日投票で衆議院選挙が行われます。衆院が解散された16日、日本共産党の志位委員長が新宿駅西口で「60年続いた自民党型政治を本物の改革で断ち切るとき」「提案し、行動する。日本共産党の躍進を」と訴えました。

志位委員長は、「民主党がなぜ国民の多数が反対する消費税増税、原発再稼働を強行したのか、その根っこには『財界中心の政治』があるから。なぜ日本の農業と経済を壊すTPPを推進し、沖縄が島ぐるみで反対するオスプレイの配備を強行したのか、その根っこには『アメリカいいなりの政治』があるから。この二つの害悪を断ち切れるのは、原発マネー、財界マネーをびた一文受け取らない日本共産党、日米安保をなくし友好条約を結ぼうと訴える日本共産党しかない。ぜひとも、これらの仕事をやらせてください。日本共産党は創立90年。1世紀近い歴史によって試された政党です。21世紀の未来を安心して託せる政党です。いままでの9議席を倍の18以上に増やし、日本の政治全体に衝撃を与えるような大躍進を勝ち取らせてください。」と力強く訴えました。

みち子のひとりごと

震度7の揺れ

医療生協東地区のバス旅行で淡路島に行ってきました。初めての淡路島でしたが、あいにくの雨模様で景色はほとんど楽しめませんでした。予定通り八淨寺と、震災記念館に行きました。

震災記念館では、17年前の地震で持ちあがった地面がそのままに保存され、自然の力の大きさに改めて畏怖の思いを抱きました。また、震災と同じ震度7の揺れを体験してきました。前後左右だけでなく上下にも不規則に続く揺れに、安全だとわかっていても、その激しさに身体が固まってしまいました。

いつ来てもおかしくないと言われている大地震。突然、しかもいつ終わるともしれない、このような揺れが来た時、冷静でいられるでしょうか。このような疑似体験も大事ですし、時には「もし今地震が来たら」というシミュレーションをしておくことも、いざという時に役に立つのではないかと思います。

(今回は写真をとるのも忘れて、見入っ
てしまいました)

比例近畿ブロック5人目の予定候補

こくた 恵二
宮本 たけし
清水 ただし
堀内 照文

に続き、5人目の比例予定候補を
発表しました。



ふしき みちよ

1958年4月12日生まれ、53歳。

ナイチンゲールにあこがれ、看護師の道へ。
大津市民病院で小児病棟に勤務。その後大津
赤十字病院で勤務し、家族や職場のささえで
4人の子どもを育てながら、3交代勤務をして
きました。

看護師として働くなかで、たびかさなる医
療制度の改悪で、窓口の負担が重くのしかか
る患者さんを目の当のあたりにし、「いのち
が大切にされる世の中にしたい」と日本共産
党に入党。

大津市議会議員 2期8年間。滋賀県議会議
員を1期4年間、介護保険の改善や、医療費無
料化を求め、医師・看護師不足など毎議会医
療・介護問題を取り上げ、県民のみなさんの
声を届けてきました。

くにしげ秀明です

よろしく

おねがいします



した。
あきれ
ました。民主

願いに次々と背いてお
いて、よく言えたもの
です。これ以上民主党
流に「前に」進ませる
わけには、いきません。

野田首相は衆院解散
後の会見で「前に進む
か（政権交代前の）後
ろに戻るか」の政治選
択が問われると述べま

党政権は、どう前に進
んできたと言えるので
しょう。
消費税、原発、米軍
基地問題など、国民の

財界中心と、アメリ
カの改革なしには、「前
進」は見通せません。

日本の巨大メディアを考える ②7 志位和夫

いま熱い問題になっているどの問
題をとつても、消費税増税の問題を
とつても、TPP参加の問題をとつ
ても、巨大メディアの流している報
道は、「権力の監視役」などと言う
ものとはおよそかけ離れたものでは
ないですか。「もたもたするな」と
いう「尻たたぎ役」ではないですか。
しかも、そうした国政の根本問題に
なると、巨大メディアの論調は、驚
くほど一色です。相互のチェックが
働きません。「独裁」を公言しては
ばからないような人物を、無批判に、
あたかも「改革のヒーロー」である
かのように持ち上げたことでも、巨
大メディアの責任は大きいといわね
ばなりません。

「新聞倫理綱領」では「正確と公
正」「独立と寛容」をうたつていま
す。放送法では「政治的に公平であ
ること」「意見が対立している問題
については、できるだけ多くの角度
から論点を明らかにすること」を放
送事業者に義務付けています。これ
にてらしても、今の日本の巨大メイ
ディアの実態は、公正、公平、独立とい
うジャーナリズムの魂を、みずから
投げ捨てるものではないか。このこ
とがきびしく問われていると、私は
思います。